

令和 7 年度 自己評価シート【東山児童館】

1、福祉サービスの基本方針と組織

1－1 理念・基本方針

1－1－（１） 理念、基本方針が明文化（児童館内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等））され周知が図られている。	
【判断基準】 (a) 児童館の理念、基本方針が適切に明文化されており、職員、利用者等への周知が図られている。 (b) 児童館の理念、基本方針が明文化されているが、内容や周知が十分ではない。 (c) 児童館の理念、基本方針の明文化や職員、利用者等への周知がされていない。	
【自己評価】	実践例（取組や記録等）
<input checked="" type="checkbox"/> a)、 <input type="checkbox"/> b)、 <input type="checkbox"/> c)	ホームページや児童館入口に掲示し明文化しています。子ども会議実施の際は、『目黒区子ども条例』についてこども達にわかりやすく伝え、児童館運営に反映しています。
1－1－（２） 理念、基本方針の確立・周知について	
良いと思う点	改善が必要だと思う点
年間事業計画作成時や行事を企画する際には、目黒区児童館運営指針等の理念や基本方針にそって作成し、事業後にも振り返りを行っています。地域行事に参加したり、地域会議等で児童館の取り組みをお伝えしたりして、児童館の理念や基本方針について知っていただく機会を設けています。	地域の方や利用者、保護者へよりわかりやすく周知するために、館内掲示やパンフレットを令和 8 年 4 月改訂目指して作成していきます。

2、児童館の活動に関する事項

2－1 児童館の理念・目的及び施設特性

2－1－（１） 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込んでいる。	
【判断基準】 (a) 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込んでいる。 (b) 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込んでいるが、十分ではない。 (c) 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込んでいない。	

【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
<input checked="" type="checkbox"/> a)、 <input type="checkbox"/> b)、 <input type="checkbox"/> c)	目黒区児童館運営指針をもとに事業計画を立てています。年度末には、重点課題の抽出も行い、次年度に生かしていきます。また、行事を実施する際には、児童館運営指針をもとに目的等を設定するようにしています。
2－1－（2） 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の施設特性を発揮している。	
【判断基準】 (a) 児童館の施設特性を発揮している。 (b) 児童館の施設特性を発揮しているが、十分ではない。 (c) 児童館の施設特性を発揮していない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
<input checked="" type="checkbox"/> a)、 <input type="checkbox"/> b)、 <input type="checkbox"/> c)	一人で来館してもグループで来館しても、好きな遊びができるように準備をしています。特に図工室では材料を豊富に準備し、子どもたちは自由に思い思いの工作を楽しんでいます。中高生タイムでは、こども達の意見や要望を吸い上げ、運営に生かしています。職員は、こどもの想いに寄り添い、遊びを通して関係を築けるようにしています。
2－1－（3） 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	
【判断基準】 (a) 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。 (b) － (c) 子どもの権利擁護に関する取組が十分ではない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
<input checked="" type="checkbox"/> a)、 <input type="checkbox"/> b)、 <input type="checkbox"/> c)	『ふれあいボックス（くろめちゃんボックス）』を活用し、主任児童委員と連携して相談を行える環境を設定しています。また、職員へ意見を伝える『なないろボックス』を設置したり、日常の会話からこどものやりたいことを聞き取ったりして、運営に生かしています。子ども会議では、自由に意見を出してもらい、『目黒区子ども条例』を分かりやすく説明し、パンフレットなども配布しています。
2－1－（4） 児童館の理念・目的及び施設特性について	
良いと思う点	改善が必要だと思う点
児童館は、いつでも安心して利用できる場所であり、自分のやりたいことが実現でき、自分の思いを伝えながら遊びを深められる場所となっています。様々な遊びや職員との関わりを通して、子どもたちの心身の成長につながるように支援しています。	目黒区児童館運営指針の理念や目的について職員がさらに理解を深めるために、スタッフも含めた職場内研修として読み合わせをする機会を設け、共通理解に努めていきます。

2-2 遊びによる子どもの育成

2-2-(1)	
子どもの発達の特徴や発達過程を理解し、一人ひとりの心身の状態を把握して子どもの育成を行っている。	
【判断基準】 (a) 子どもの発達の特徴や発達過程を理解し、一人ひとりの心身の状態を把握して子どもの育成を行っている。 (b) 子どもの発達の特徴や発達過程を理解し、一人ひとりの心身の状態を把握して子どもの育成を行っているが、十分ではない。 (c) 子どもの発達の特徴や発達過程を理解していない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
<input checked="" type="checkbox"/> a)、 <input type="checkbox"/> b)、 <input type="checkbox"/> c)	日々の職員ミーティングでは、一人ひとりの子どもの様子を共有し、その子の特性にあった対応を全ての職員が行えるように検討・実践しています。必要に応じて学校等の外部機関とも連携できるように情報交換を行っています。
2-2-(2)	
子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしている。	
【判断基準】 (a) 子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしている。 (b) 子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしているが、十分ではない。 (c) 子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしていない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
<input checked="" type="checkbox"/> a)、 <input type="checkbox"/> b)、 <input type="checkbox"/> c)	プレイルームでボールを使わない遊びを行う時間を導入したところ、女子児童のプレイルーム参加率が上昇し、遊びの内容決めにも参加するようになりました。また、他学年・男女混合で長く遊ぶ姿が見られるようになりました。ホールにあるスポーツダーツは小学校高学年以上が遊べますが、プレイルームのボール遊びを目指して遊びに来ていた児童がダーツの順番待ちの時間にカードゲームをするなど、他の遊びにも取り組む様子が見られています。
2-2-(3)	
子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるように援助している。	
【判断基準】 (a) 子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるように援助している。 (b) 子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるように援助しているが、十分ではない。 (c) 子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるような援助を行っていない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）

<input checked="" type="checkbox"/> a)、 <input type="checkbox"/> b)、 <input type="checkbox"/> c)	<p>プレイルームでは、異年齢の子どもたちが合同で遊ぶ時間と、年齢別に分かれて遊ぶ時間をそれぞれ設けています。異年齢と遊ぶ時間には、年下の子に対して力加減をしたり、ルールに条件差を設けたりと、全員が楽しめるように工夫をしている姿が見られます。同年齢だけの時間は、「思い切り全力を出して遊ぶことができ嬉しい。」と話している子どもがいました。図工室では、設定工作やスペシャル工作の作り方を習得した子どもたちが、他の友達や幼児さんへ自主的に教える姿が見られ、異年齢間の交流が行われています。</p>
2－2－（4） 遊びによる子どもの育成について	
良いと思う点	改善が必要だと思う点
<p>様々な遊びの中から好きなものや好きなことを見つけて、新たに児童館内で遊んでみたいことの提案が積極的に行われています。他の子どもの遊びの様子を真似したり、その遊びを発展させたりして、日々新たな遊びが展開され浸透しています。</p>	<p>新しい遊びを展開させるためには、様々な遊びを展開する機会を増やす必要があります。子ども会議等でイベントに参加し、児童館を「利用する場所」から「一緒につくる場所」にしていきたいと考えています。</p>

2－3 児童館の安全管理

2－3－（1） 緊急時（事故、感染症の発生時など）の対応など利用者の安全確保のための体制が整備されている。	
【判断基準】 (a) 利用者の安全確保のために、体制が整備され機能している。 (b) 利用者の安全確保のために、体制が整備されているが、十分に機能していない。 (c) 利用者の安全確保のために、体制が整備されていない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
<input checked="" type="checkbox"/> a)、 <input type="checkbox"/> b)、 <input type="checkbox"/> c)	<p>事故には複数の職員で対応して詳細を確認し、保護者と連携をとって対応しています。感染症対応では、体調不良の申し出があった児童や顔色が悪い児童は検温を行い、必要に応じて保護者へお迎えの要請を行っています。感染症流行期間中は、学校と連携し、感染症による学級閉鎖のクラスを把握し、感染症拡大防止を図っています。また、児童館付近の公園で不審者に遭遇した児童を保護した際には、不審者対応マニュアルに基づいて警察への通報と学校への報告を行いました。</p>
2－3－（2） 利用者の安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。	
【判断基準】 (a) 利用者の安全を脅かす事例を組織として収集し、要員分析と対応策の検討を行い実行している。 (b) 利用者の安全を脅かす事例を組織として収集しているが、要員分析と対応策の検討が十分でない。	

(c) 利用者の安全を脅かす事例を組織として収集していない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
<input checked="" type="checkbox"/> a)、 <input type="checkbox"/> b)、 <input type="checkbox"/> c)	職員の中に安全管理者を設定して、日々館内の危険箇所の点検を行っています。安全管理者は社内の安全会議に出席し、他施設とヒヤリハット事案などの情報交換を行っています。また、災害や不審者対応など、毎月様々な想定で避難訓練を行い、全員が非常時に同じ行動を起こせるようにしています。